

新任更生保護施設補導職員研修

1 日 時

令和6年9月26日（木）午前10時～同月27日（金）午後3時

2 場 所

法務省赤れんが棟 第1教室（東京都千代田区霞が関1-1-1）

3 研修員

更生保護施設に常勤する補導主任、補導員、福祉職員、薬物専門職員及び訪問支援員のうち、地方更生保護委員会委員長が推薦し、法務省保護局長が研修員として認めた者 57名

4 概 要

法務省保護局及び全国更生保護法人連盟の共催により、法務省赤れんが棟第1教室において、比較的経験年数の少ない更生保護施設の補導員、補導主任、福祉職員、薬物専門職員及び訪問支援職員を対象に職務遂行に必要な処遇に関する基礎的知識を修得させることを目的として実施された。

初日の開講式、冒頭に押切法務省保護局長及び全国更生保護法人連盟稲葉常務理事（事務局長）の挨拶があり、保護局振興課・外部講師・更生保護施設施設長による講義やグループ討議が行われ、2



押切法務省保護局長



稲葉全更連事務局長

日目は矯正施設保護統括・福祉専門官の講義や更生保護施設補導主任から提供された処遇事例を題材にグループでの事例研究が行われ、2日間の研修が終了した。

【第1日目】

○講 義「更生保護の現状と課題」

（講 師）：保護局保護調査官 守谷 哲毅



※パワーポイントを使用してスライド資料により、再犯者率の高止まり、近年の更生保護における取組（特性に応じた処遇・就労支援・息の長い支援）、更生保護施設を取り巻く最近の動向（人口減少・高齢化、帰住先がない受刑者の推移、第二次再犯防止推進計画、事業法等の改正と更生保護施設に対する期待～処遇施設化（特定補導・フォローアップ事業・訪問支援事業）、地域ニーズを踏まえた事業実施、事業者間の連携強化、地域と連携した息の長い支援・地域支援ネットワークの構築等）に関して説明され、更生保護誌に掲載され小説の題材となった事例を紹介して講義を終えた。

の連携強化、地域と連携した息の長い支援・地域支援ネットワークの構築等に関して説明され、更生保護誌に掲載され小説の題材となった事例を紹介して講義を終えた。

○講 義「更生保護施設に関する各種施策・制度」

（講 師）：保護局更生保護振興課事業係長 山下 健太



※パワーポイントを使用してスライド資料により、更生保護施設を取り巻く情勢、更生保護施設の概要（受入れ実績等・実人員・事件種別・平均在所期間・退所先等）、各種処遇の実施状況（高齢・障害、薬物処遇、訪問支援・フォローアップ、特定補導）、更生保護委託費、更生保護施設への期待等について講義された。

○講 義「面接の基本と対象者との接し方～相手を動かすアプローチ～」

（講 師）：北里大学医療衛生学部准教授 野村 和孝

※講師の経歴や臨床研究等の経験談等を交えながら、更生保護施設在在者を対象とした社会的スキル訓練（SST）のポイント（未来志向的、ポジティブフィードバック）の流れ等を説明され、問題理解に関する心理療法の特徴や認知行動療法の基本となる3つの姿勢（協同的経験主義・誘導による発見・ソクラテス式質問）に関する演習～太陽と雲のワークシートを用いて研修員同士で互いの長所や短所を話し合う～研修生が2人一組となってい、相手を動かす考え方（本人にとってのよい結果が同じ行動を繰り返させる、相手が何を求めているかによって出方を変える、抵抗のメリット）等による行動変容を説明、最後に指導者の抱える葛藤等に触れ、効果的なストレス対処法（コーピング、リラクゼーション、マインドフルネス）等について講義を行った。



野村准教授



研修風景・演習①



演習②

○講 義「更生保護施設の処遇～栃木明德会での寮生との関わり」

（講 師）：栃木明德会 施設長 永山 正明

※近年の施設収容率の推移や職員配置や当番勤務の状況、新型コロナウイルス発生時における緊急対応等日頃の施設運営の様態等を説明されたほか、女性専用の更生保護施設入所者が抱える重複障害（薬物依存、摂食障害、知的障害、精神障害、クレプトマニア、発達障害）の問題や高齢・認知症の疑いがある者などへの関わり～多数の放火前科を有する知的障害者である「福田九右衛門」の事例紹介で地域定着支援対策の必要性を強調され、万引き等の問題行動があった際の対処策など実際の処遇場面のエピソードを交えて講義された。また、特定補導の各種プログラムや更生保護女性会との交流など紹介されたほか、施設退所後の課題として家族問題や住居確保の問題、孤立・孤独の問題などを挙げられ、訪問支援事業による



支援の開始、地域での孤立や不安解消に向けた地域支援ネットワーク「とちぎりスタート支援プロジェクト」の取組など地域と連携した新しい試みについて説明された。

○グループ討議「補導職員としての在り方について」

(助言者)：保護局更生保護振興課法務専門官 青木 出
栃木明德会 施設長 永山 正明

※保護局担当者からグループ討議の進め方について説明があり、その後、9グループに分かれて、「課題；更生保護施設職員として勤務する中での悩み・相談したいと思っていることやそれに対する自分なりの対処方法」について事前に提出された事柄をグループ討議後、各グループ代表者による発表があり、助言者からコメントがあった。



グループ討議①



グループ討議②

【第2日目】

○講 義「矯正施設における社会復帰支援」

(講 師)：府中刑務所審査・保護統括 棟近 展行
同 刑務所福祉専門官 桑原 行恵



※パワーポイントを使用してスライド資料により、府中刑務所被収容者の実情、社会復帰支援の取組～仮釈放の積極的な運用、就労支援・福祉的支援、高齢・障害受刑者数の推移、特別調整による福祉的支援の流れ、独自調整の実際、更生保護施設・自立準備ホーム帰住者の状況、福祉支援における課題、更生保護施設への期待など講師の経験談を交えながら講義を行った。

○事例研究1

(講 師)：真哉会 補導主任 角谷 奏子
(助言者)：東京保護観察所統括保護観察官 大木 祐介
保護局更生保護振興課法務専門官 青木 出

事例紹介；62歳・男性、覚せい剤取締法違反（一部猶予刑＋執行猶予取消刑）・準初犯
2入歴、性格・疾病、生活歴、家族関係、入所後の経過等

※保護局担当者から研究討議の進め方について説明があり、その後、9グループに分かれて、当該事例を施設で受け入れる場合、事例の課題を共有し、課題への対応方法を検討し、他に工夫できる点はないか、各班ごとにグループ討議後、グループ代表者による意見等の発表があり、最後に講師から、コメントがあった。



真哉会・角谷補導主任



事例研究1・発表者

○事例研究2

(講師)：報徳更生寮 補導主任 細田 武伸

(助言者)：保護局更生保護振興課法務専門官 青木 出

事例紹介；65歳・男性、占有離脱物横領（自転車）・罰金刑・更生緊急保護、性格・疾病、生活歴、家族関係、初回面接時の様子、入所後の経過等

※講師から当該事例の概要（入所中に福祉的支援や関係団体との調整を実施し、医療サービス等に繋がったと説明があり、その後、事例研究1と同様にグループに分かれて、当該事例を施設で受け入れる場合、退所後に向けて、入所中にどのような支援や調整が考えられるか、各班ごとにグループ討議後、グループ代表者による意見等の発表があり、最後に講師から、コメントがあった。



報徳更生寮・細田補導主任



事例研究2・発表者

※研修員からの感想、意見概要（振り返りシート抜粋）

1 本研修を、あなたの今後の業務にどのように活かしたいと思うか

「面接の基本と対象者の接し方」の研修内容を軸とし、本研修会で聞いた各施設の現状等を参考とさせていただき、今後の業務に活かしていければと思っています。

今回の研修を通して、就労支援、お金の管理、生活指導の仕方など、施設の体制などによって様々なやり方があることを知ることができました。今後、自分たちのやり方が全てであるという考えを捨てて、対象者の特性に合わせて、柔軟にどのような処遇や支援がその対象者

にあっているのかを考えて対応していきたいと思います。

研修で学んだことはもちろんであるが、何かつまづいた時や、いい案がでなかった時等、他の施設の方々と連絡を取り、情報を収集していきたい。高齢、障害、依存症などの特性に合わせた重層的で息の長い支援を実施できるよう、社会福祉制度について継続的に学び、業務に生かしたい。

様々な事情から罪を犯し、刑を終え再出発をしようとする寮生の一人一人に丁寧に心を配り、再び犯罪に手を染めず、自信と希望を持って社会に踏み出す手助けをしたいと願う。必要とされる医療、福祉の制度についての知識を身につけ、地域の人的資源の拡大にも尽力したい。また寮生の退所後も孤立させることのない、途切れることのない関係を作り共に生きていきたいと思う。

適正な処遇力を高め、地域の関係団体や自治体等による再犯防止に取り組み連携体制ができるよう関係を深め向上したい。ひとつひとつの問題に対して、施設内の諸先輩からの助言はもとより、他の更生保護施設や機関など、横の関係も大切にしながら業務に当たっていけるように努めていきたい。

同じケースでも、いろいろな角度での視野・処遇のやり方があり勉強になりました。今後も日々勉強、どんな場面でも対応できるようにスキルアップして行きます。

更生保護施策や職員として必要となる知識などを幅広く学ぶことができて良かった。普段の業務の中ではなかなか掘り下げられない事柄なども知ることができた。特に寮生と直接関わる面接場面やプログラムにおいて、今回の研修で得たことを思い出しながら日々の業務に当たっていきたいと思う。

対象者との接し方について参考になるお話を聴けて良かったと思います。聞く力の重要性を身に染みて感じました。入所者に寄り添い本人の思いを尊重し、1日も早く自立し規則正しい生活が送れるように全力で取り組みたい。

寮生に対して退会後も見据えて寄り添える指導ができるようにしたいと思います。施設内の職員でチームとなり、対象者に適切な支援が行えるように、支援の方向性を検討する機会を持つように働きかけていきたい。それぞれの対象者には、罪を犯した様々な背景があることを再認識し、アセスメントを丁寧に行い、個別性を理解して本人が更生意欲を維持できるような声かけや促しができるように心掛けていきたい。

多くの更生保護施設補導職員の方と知り合うことができたので、できるだけ見学に行ったり、個別事項に関する現状はどうか参考に聞いたりといった姿勢で業務に取り組んでいきたいと思います。まだまだやれることは沢山あることが分かったので、研修や自学を通して、社会制度等を理解して自分が対象者や、社会のために何ができるかを意識しながら、働きたいと思いました。

野村先生のお話を振り返りながら対象者と接し、精進しながらひとりでも多く更生していけるよう惜しみなく務めたいと感じる。更生保護事業の基本を学ぶ良い機会となった。業務に携わる中で、入所予定の方の現状や今後の動向について把握しながら取り組むことができ、また、基本的に半年間という短い時間の中で効率的に社会復帰を進めるための基盤にもなるため、技術的に生かすというよりも現状を把握しながら業務に取り組んでいきたいと思った。

2 本研修を受けて、更に学びたいこと、もっと知りたいこと

更生保護は処遇に係る業務が最優先されることは承知した上で、施設運営に係る話も聞きたかったと思っています。更生保護施設に関する各種施策・制度について、法的根拠、補導援護、救護、委託費等基本的なことをもっとしっかりと学びたいと思いました。

訪問支援事業の重要性を、改めて感じました。今後も同事業を学んでいきたいと思っています。

「下関放火事件」や事例検討にもあったような困難事例について考えたい。福祉的支援への対応に臆することなく臨めるよう、社会福祉制度について今一度学びを深めたい。

福祉関係について、特に高齢者への福祉支援の環境調整について、受入れを協力したい。更生保護施設の今後の経営（財務）について知りたい。

面接におけるテクニックや実践。他施設で行っているプログラムについて知りたい。

更生保護分野は専門的な用語も多く、初めて聞くような言葉も多い。あえて専門的な言葉を多用した事例の紹介などがあるとより実践的に捉えられる気もする。また、各施設の紹介コーナー（研修期間中は貼り出しておき、休憩時間に自由に見て回ることができるような感じ。パソコン等で制作してもらい、データの事前提出方式など）みたいなものがあると他施設がどのような取組をしていて、どんな特徴があるのか等を知ることができて良いと感じた。各施設の運営や課題に対する対処法など、具体的な話をお伺いしたいと思っています。

更生保護施設における処遇等に関して、法的根拠についても機会があれば学びたいと感じた。各更生保護施設内でのトラブル等の事故事例（飲酒、門限違反、他の入所者と揉め事等）の概要、そして、それらについての対処方法について具体的に教えてほしい。

面接の基本について学んだが、心理的な知識は面接で特に重要になってくると思うので、もっと詳しく詳細を学びたいと思った。

他施設での処遇内容（特定補導C群、D群）などの詳しいことがもう少し知りたかった。具体的に行われている事例の紹介と報告書等についても紹介してもらい、実施可能な処遇については取り入れていきたい。「息の長い支援」や訪問支援においてアウトリーチとあるが、訪問支援の延長は本人の同意が必要で、支援を拒否する人や連絡が取れにくくなる対象の方が、見守り等でつながっていくことが大切と思う。訪問支援の継続の基準や運用上の事例などを教えてもらいたい。

全国各施設の規則、職員の当直体制、処遇面について知りたいと思った。「とちぎりスタート支援プロジェクト」に例を視るように、更生施設を取り巻く行政機関・関係機関・各種団体等にどういったものがあり、どういうケースで連携しているのか、それぞれの役割等を深く掘り下げていただければありがたい。

「面接の基本と対象者との接し方」について、もっと詳しく学びたいと思いました。

2～3年に1度程度の継続的な研修会や、「1年目で知っておきたいこと」「3年経ったらこれくらいは知っておいてください」「5年経ったらここまではやってください」みたいなテキストを観察所で作って配布して頂けると必要な知識が習得しやすいと感じる。

認知行動療法について、更に知識を習得したいと感じました。

3 今後の研修の参考のために、本研修について、今後も継続した方が良い点、改善を要する点

研修場所が千葉県浦安から法務省赤レンガ棟に変わったのは、参加者の移動等考慮すると良かったと思う。

グループ討議、事例研究は、各施設の取組が理解することができ、とても参考になるので継続してもらいたいと思います。グループ討議の時間を増す。他の施設の給食の献立を知りたい。

講義は参考になりますが、懇親会を通して共感した点も多く大事に思う。

研修日程は3日ぐらい必要と思われる。研修規模、講義内容、講義形式については良かった。グループ討議、事例研究は非常に有意義でした。それぞれの研修員の考えを聞くことができ、新たな情報を得ることができました。また、お互い話し合うことで研修員同志のつながりができ、講義形式では得られないものであると思う。

野村先生の講義を来年以降も拝聴したい。とても平易な説明で、面接技術の理解が進んだ。盛りだくさんの講義内容でしたが、更生保護施設の職員として身につけなければいけない知識、心構えや制度について学ぶことができました。

新任研修に限らず、今後の研修体系など説明してほしい。

講義とグループ討議の時間のバランスについて。研修員同士の情報交換及びグループ討議の時間がとても有意義だったので、資料がある講義時間を短くして、その分グループ討議の時間を増やすことで、研修員同士の情報交換やグループ討議の内容が広がり・深まると思う。他施設の運営に関する講義やグループ討議による他施設職員との情報交換は、有益だった。他施設との交流は今後とも積極的に参加したい。

各施設の方々と意見交換ができて大変有意義でした。それぞれの施設の対応の仕方もそれぞれ違ってとてもためになりました。地域・年齢・性別・職歴等、数多くの考え方・処遇のやり方を体験できたことは良かった。

研修内容は更生保護分野について全体的に網羅しており、今後も継続してほしいと感じた。特に寮生との関わり方や面接技法等は寮生と直接関わる職員としては必要となる知識のため、重点的に学びたい。生活環境調整の面接等について、質問事項や確認事項等について、より具体的な方法やテクニックを指導していただきたい。

更生保護施設長のお話は、生の声で大変なご苦勞を感じました。

施設間の交流は大切だと思います。それぞれの施設の取組について具体例を知ることができました。また、再犯防止という大きな問題について、矯正施設と連携関係を築けるよう今後も議論を深める場となるように思います。更生保護施設における処遇等に関して、法的根拠について、もっと学びたいと感じました。自助グループの方の講義もあればいいと思います。更生保護に関する参考書籍の紹介及び販売を行っていただきたい。（注文でも可）

更生保護の現状と課題、各種施策制度は仕事に取り組む上での基本を理解することができ良かった。一日目終了後の懇親会は打ち解けた話ができ楽しかった。

討議結果の発表について、今回は発表者の感想を述べるグループが多かったため、グループ毎に問題点と討議結果を発表させる形式とすることが討議としては望ましい。

特別処遇についての内容がやや難しく時間を増やしてほしい。

更生保護の現状と課題から入ったので基本を再認識させられてよかったです。席替えで多くの方とお話することができました。

法務省の赤レンガ棟で研修を受けること（歴史ある場所で学べる）はとても嬉しいです。

令和6年度新任更生保護施設補導職員研修 研修員名簿

研修員 番 号	管轄	所管庁	施設名	氏 名	職名（該当するものに○）				
					補導 主任	補導員	福祉 職員	薬物専 門職員	訪問支 援職員
1	北海道	釧路	釧路慈徳会	千葉 孝俊		○			
2		釧路	錦水寮	岩岡 昭治		○			
3	東北	青森	プラザあすなろ	櫻田 正弘		○			
4		仙台	宮城東華会	秀島 裕		○			
5		仙台	宮城東華会	坂本 陽一		○			
6		福島	至道会	二階堂 一宏		○			
7	関東	水戸	有光苑	根本 正道		○			
8		東京	更新会	藤原 陽一郎			○		
9		東京	真哉会	坂口 綾子				○	
10		東京	静修会荒川寮	米澤 孝子		○			
11		東京	善隣厚生会	横澤 英樹		○			
12		東京	敬和園	郡司 慎一		○			
13		東京	日新協会	鷹野 正明		○			
14		東京	両全会	坪井 恵子			○		
15		東京	鶴舞会	内田 洋			○		
16		東京	自愛会	真保 修		○			
17		横浜	川崎自立会	久保田 晶子			○		
18		横浜	報徳更生寮	若松 渚		○			
19		横浜	報徳更生寮	加藤 博章		○			
20		新潟	新潟川岸寮	田中 洋志					○
21		新潟	新潟川岸寮	大旗 裕				○	
22		長野	裾花寮	米沢 一浩		○			
23	長野	裾花寮	原 君江			○			

24		長野	裾花寮	小林 政市		○			
25		静岡	少年の家	中本 忠孝	○				
26	中部	金沢	親和寮	柿島 剛		○			
27		金沢	親和寮	上野 純一		○			
28		福井	福井福田会	山田 克郎		○			
29		岐阜	光風荘	高木 敏夫		○			
30		名古屋	愛知自啓会	北村 與志夫		○			
31		名古屋	中協園	八木 敏洋		○			
32		名古屋	中協園	加治木 忠久		○			
33		名古屋	立正園	伊藤 亜子		○			
34		名古屋	岡崎自啓会	森寄 透		○			
35		名古屋	東三更生保護会	宮川 隆充		○			
36		近畿	京都	西本願寺白光荘	古川 貴美		○		
37	大阪		愛正会	仲里 恵					○
38	堺支部		宝珠園	倉谷 浩一		○			
39	堺支部		泉州寮	梅本 憲幸		○			
40	堺支部		泉州寮	山口 重利		○			
41	神戸		湊川寮	高橋 富美恵			○		
42	神戸		播磨保正会	大上 達也		○			
43	和歌山		端正会	草分 裕之		○			
44	中国	岡山	美作自修会	田中 秀樹		○			
45		広島	呉清明園	濱口 敏幸		○			
46	四国	徳島	徳島自立会	林 久		○			
47		松山	愛媛県更生保護会	藤岡 宗晃			○		
48		高知	高坂寮	高橋 由香					○
49	九州	福岡	福正会	佐藤 巧		○			
50		福岡	福正会	松井 智		○			
51		福岡	湧金寮	中野 淳子			○		

52	佐賀	佐賀県恒産会	香月 幸太郎		○			
53	長崎	長崎啓成会	高久 明伸		○			
54	長崎	長崎啓成会	浦 竹市		○			
55	長崎	佐世保白雲	本木 和博		○			
56	長崎	雲仙・虹	松本 明		○			
57	熊本	熊本自営会	下崎 徹			○		